# 新たなステージを迎える 新日鉄の音楽メセナ活動

## ラジオ番組「新日鉄コンサート」50年の歴史を踏まえ、新たなステージへ

### 良質な音楽の普及に貢献した「新日鉄コンサート」

3月24日にサントリーホールで行われた公開録音を最後に、半世紀にわたって続いてきた、新日鉄提供によるラジオAM放送の音楽番組「新日鉄コンサート」が終了した。戦後まもなく、まだ音楽環境が整っていなかった1955年（昭和30年）に「フジセイテツコンサート」として始まったこの番組は、民間AM放送初のクラシック音楽専門番組として、当時、生演奏を聴く機会がほとんどなかった一般の人々を魅了した。満足なホールもなく人々が良質な音楽を求めていた時期であり、演奏家も演奏する場を求めていた。そこに演奏の場を提供したのが新日鉄コンサートだった。

こうした公開録音は、後に日本を代表することになる

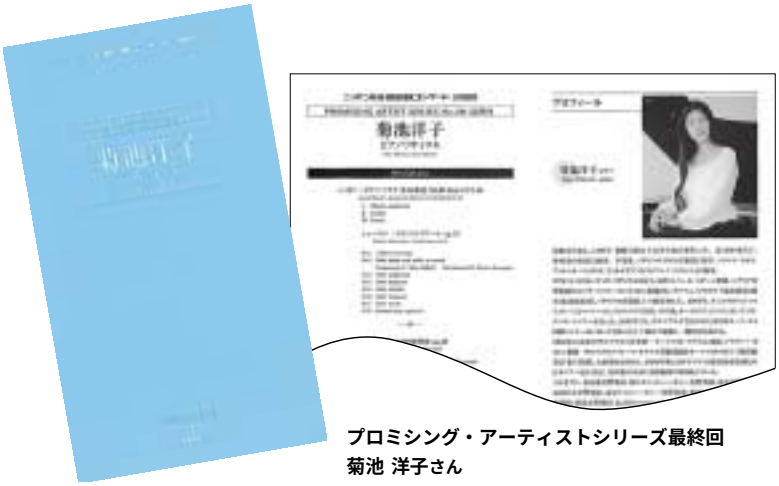
ピアノ 田中希代子さん　昭和32年6月8日（大和證券ホール）

製鉄百年祭記念音楽会　NFC交響楽団　昭和32年12月1日（日本青年館）

多くの音楽家を育てる場ともなった。必ずしも外国の有名アーティストを招聘するのではなく、日本の若手新進気鋭の演奏家に場を提供したことは、とても意義深い。さらには番組を通じて数多くの優れた邦人作品も生まれた。

そうした中、昭和51年には有望な新人を紹介する「プロミシングアーティストシリーズ」が登場、現在までに106回を迎えた。このように長い間継続して若手アーティストを支援し続けた会社は他にないだろう。このシリーズの出演者はそうそうたるメンバーで、その後期待通り世界に羽ばたき、活躍している。

クラシック音楽というと主に外国の有名アーティストがもてはやされていた時代に、将来性のある人材を発掘して世に紹介し、それをシリーズとして継続してきたことには大きな価値がある。



プロミシング・アーティストシリーズ最終回
菊池 洋子さん

## 公開録音「プロミシング・アーティスト・シリーズ」に出演された方々

1976年 藤原真理〈チェロ〉 1977年 山路芳久〈テノール〉 水野佳子〈ヴァイオリン〉
1978年 山崎伸子〈チェロ〉 1980年 加藤知子〈ヴァイオリン〉 1981年 阿部裕之〈ピアノ〉
鈴木秀美〈チェロ〉1982年 清水まり〈ソプラノ〉 三上明子〈フルート〉 1983年 松尾葉子〈指揮〉
竹澤恭子〈ヴァイオリン〉 1984年 伊藤恵〈ピアノ〉 梅根恵〈ピアノ〉
1985年 一戸敦・菊本かおり〈フルート・ハープ〉 1986年 吉野直子〈ハープ〉
久保田巧〈ヴァイオリン〉 1987年 田部京子〈ピアノ〉 ハレー・ストリング・クァルテット
1988年 柳田孝子〈ソプラノ〉 1989年 長谷川陽子〈チェロ〉 津田真理〈ピアノ〉
1990年 若林顕〈ピアノ〉 錦織健〈テノール〉 佐久間由美子〈フルート〉
諏訪内晶子〈ヴァイオリン〉 1990年 小川典子〈ピアノ〉 長澤真澄〈ハープ〉
大島文子〈クラリネット〉 1991年 福島明也〈バリトン〉 有森直樹〈ピアノ〉
矢部達哉〈ヴァイオリン〉 足立さつき〈ソプラノ〉 斎藤明子〈ギター〉 小林美恵〈ヴァイオリン〉
東誠三〈ピアノ〉 1992年 丸山泰雄〈チェロ〉 田中晶子〈ヴァイオリン〉 横山幸雄〈ピアノ〉
渡辺玲子〈ヴァイオリン〉 塩田美奈子〈ソプラノ〉 五郎部俊朗〈テノール〉 三村和子〈ピアノ〉
1993年 川田知子〈ヴァイオリン〉 野原みどり〈ピアノ〉 服部譲二〈ヴァイオリン〉
蠣崎耕三〈オーボエ〉 梅津美葉〈ヴァイオリン〉 児玉桃〈ピアノ〉 1994年 小濱妙美〈ソプラノ〉
戸田弥生〈ヴァイオリン〉 三舩優子〈ピアノ〉 菅英三子〈ソプラノ〉 山崎祐介〈ハープ〉
鎌田泉〈ヴァイオリン〉1995年 澤畑恵美〈ソプラノ〉 郷道裕子〈ヴァイオリン〉 有森博〈ピアノ〉
三原剛〈バリトン〉 川本嘉子〈ヴィオラ〉 及川浩治〈ピアノ〉1996年 岡田将〈ピアノ〉
玉井菜採〈ヴァイオリン〉 下原千恵子〈ソプラノ〉 神谷美千子〈ヴァイオリン〉
大友聖子〈ピアノ〉 岩井理花〈ソプラノ〉1997年 高橋薫子〈ソプラノ〉 村井將〈チェロ〉
江口有香〈ヴァイオリン〉 小渡恵利子〈ソプラノ〉 江口玲〈ピアノ〉 横山奈加子〈ヴァイオリン〉
1998年 永野英樹〈ピアノ〉 古典四重奏団 二村英仁〈ヴァイオリン〉 安楽真理子〈ハープ〉
佐藤美枝子〈ソプラノ〉 近藤嘉宏〈ピアノ〉 1999年 柴垣英二〈ピアノ〉 針生美智子〈ソプラノ〉
長谷部一郎〈チェロ〉 クァルテットエクセルシオ 清水直子〈ヴィオラ〉
神谷未穂〈ヴァイオリン〉 2000年 アンナ・クオ〈ソプラノ〉 藤井香織〈フルート〉
礒絵里子〈ヴァイオリン〉 江尻南美〈ピアノ〉 工藤すみれ〈チェロ〉 YAMATO弦楽四重奏団
2001年 半田美和子・甲斐栄次郎〈ソプラノ・バリトン〉 植村菜穂〈ヴァイオリン〉
青柳晋〈ピアノ〉 吉田恭子〈ヴァイオリン〉 三輪郁〈ピアノ〉
大平記子・松岡みやび〈フルート・ハープ〉 2002年 中島康晴〈テノール〉
外囿祥一郎〈ユーフォニアム〉佐 藤俊介〈ヴァイオリン〉 2003年 小菅優〈ピアノ〉
川久保賜紀〈ヴァイオリン〉 2004年 松本和将〈ピアノ〉 中鉢聡〈テノール〉 大萩康司〈ギター〉
小野明子〈ヴァイオリン〉 2005年 菊池洋子〈ピアノ〉最終回

指揮者 若杉 弘 氏

放送開始５周年記念特別演奏会 昭和３５年４月６日（日比谷公会堂）

## 50年を節目に光輝ある終焉を迎える

こうして、良い音楽を求めていた聴衆、また良い音楽を演奏する場を求めていた演奏家たちにとっての貴重な場となり、数少ないクラシック音楽番組として音楽界に貢献してきた新日鉄コンサートも、放送50周年を迎えた。

しかし今日、FMラジオ放送の普及、CD、MDの一般化、そしてインターネットの配信等、メディアの変化によって人々が音楽を聴く形が変化してきた。新日鉄としては「良質なクラシック音楽を幅広い人々が聴くことのできるAMラジオで普及する」という目的を終えたと考え、このほど番組終了に至った。

最後の公開録音は、３月24日(木)にサントリーホールで行われた。指揮者は放送当初から関わりが深かった故斎藤秀雄氏の愛弟子で、学生時代から番組と縁があった井上道義氏、演奏は新日本フィルハーモニー交響楽団。曲目は50年を節目に新たなステージに向かうにふさわしく、前半はラデツキー行進曲に始まる明るくテンポのある曲等が選ばれ、後半は「ロメオとジュリエット」組曲からの２曲に続き、マーラーの交響曲第１番「巨人」より 終楽章「嵐のように」で締めくくられた。オーケストラ全員による熱く力強い響きは、あたかも新日鉄コンサートの光輝ある終焉を見送るようであった。指揮者の井上道義氏は番組テーマ曲であるショパンの「マズルカ」をアンコール曲に選び、新日鉄の音楽メセナの新たなステージへのスタートを祝した。

## 新日鉄文化財団を軸に音楽メセナを

新日鉄コンサートを通じた50年にわたる新日鉄の音楽メセナ活動は、今回の放送終了により一つの時代の幕を閉じた。今後はその流れを(財)新日鉄文化財団が引き継ぐことになる。

新日鉄文化財団は新日鉄創立20周年記念事業の一環として設立され、この４月に創立10周年を迎えた。その基本テーマは「発掘・創造・育成・交流の場」。

音楽専用ホールとして創られた紀尾井ホールは、紀尾井という落ち着いた場所で周りの環境と調和し、奇をてらわずシンプルで機能的なデザインの建物で、訪れる観客をほっとさせる温かみのあるホールだ。

徹底して音響にこだわり、各分野のプロフェッショナルによる慎重な検討の結果として完成したこのホールは、３月で来館者が累計150万人に達した。短期間で演奏家や聴衆から高い評価を受ける日本を代表するホールとなったことは、ここで演奏したアーティストが例外なく再び紀尾井ホールでの演奏を希望すること、そして現在の定期演奏会の聴衆の半分以上が定期会員であることが、それを証明しているとも言える。

新日鉄文化財団では、洋楽のみでなく邦楽にも力を入れていることも特筆すべきことだ。日本でも数少ない邦楽専用ホールを構えた上に、独自の主催公演を継続しており、邦楽分野への貢献も続いている。

### 新日鉄コンサート公開録音　最終回　2005年3月24日

最終回パンフレットより

**●公演の曲目**

〈前半〉

ヨハン・シュトラウス父：
　ラデツキー行進曲　op.228
ヨーゼフ・シュトラウス：
　「鍛冶屋のポルカ」op.269
エードゥアルト・シュトラウス：
　ポルカ「テープは切られた」op.45
ヨハン・シュトラウス：
　ワルツ「芸術家の生涯」op.316
ヨーゼフ・シュトラウス：
　ワルツ「天体の音楽」op.235
ルロイ・アンダースン：
　「舞踏会の美女」
ルロイ・アンダースン：
　「忘れ去られし夢」
ルロイ・アンダースン：
　「プリンク、プレンク、プランク！」
ルロイ・アンダースン：
　「チキン・リール」
ルロイ・アンダースン：
　「フィドル・ファドル」

〈後半〉

プロコフィエフ：
バレエ音楽「ロメオとジュリエット」組曲より
　(第1組曲　第6曲)「バルコニーの情景」
　(第2組曲　第7曲)「キャピレット家の地下墓室」
マーラー：交響曲第1番「巨人」より
　終楽章「嵐のように」

ホールのレジデントオーケストラである紀尾井シンフォニエッタ東京（KST）は、10年前に中核メンバーを軸に、音楽大学を出たばかりの20歳台半ばの将来有望なメンバーを集めて発足したが、今では国内最高レベルのオーケストラとなっている。さらにこの５月には、以前に招聘したドイツ人指揮者のハルトムート・ヘンヒェン氏からの推薦により、ドイツのドレスデンで行われる音楽祭に招聘され、そのメインオーケストラとして公演を行う予定だ。これは非常に画期的なことであり、国際的にも評価されてきたKSTの今後ますますの活躍が期待されている。

新人の育成については、「プロミシングアーティストシリーズ」に続くかたちで1990年に「新日鉄音楽賞」のフレッシュアーティスト賞が創られた。この賞は若手で、ある程度の実績を持ち、将来有望とされる演奏家たちに贈られている。プロミシングアーティストシリーズに登場した演奏家も、選考委員によりフォローされてきた。今後このシリーズは名称を変え、新日鉄文化財団の主催公演として行われる。

具体的な育成活動としては、洋楽分野ではプロの演奏家による公開レッスンやマスタークラスの実施、邦楽分野では中高生を対象とした「手ほどき」シリーズや若手演奏家育成を目的とした「ゆう志の会」などが行われ、紀尾井シンフォニエッタ東京でも、現シーズンから有望な新人をシーズンメンバーとして受け入れている。

なお、我が国の音楽会を長く支えてきた人材に贈賞する「新日鉄音楽賞」特別賞の存在も忘れてはならない。

一方、よい音楽の普及という意味においては、全国の音楽ファンへ幅広く良質の音楽を提供することは今後の重要な課題だ。紀尾井シンフォニエッタ東京地方公演の企画などに加え、メディアの進化にあわせて演奏コンテンツのCD化、DVD化、ネット配信なども期待される。

## これからも変わらぬ基軸で

新日鉄の音楽文化におけるメセナ活動は50年前に始まり、その間進化を遂げてきた。その時々の時代背景に応じて形を変えてきたが、企業経営の側では常に変わらぬ基軸を持っていたと言える。メセナ活動の具体形であるソフトやハードは変化しても、新日鉄の音楽メセナの根幹は変わらない。

決して華やかではないが、地道にじっくりと、良質な音楽を提供し、人を育てていく。「新日鉄コンサート」の50年の歴史は、ちょうど10周年を迎えた新日鉄文化財団の活動に、あたかもリレーゾーンでバトンタッチされるように引き継がれ、これからの50年もさらに進化していく。

### 紀尾井シンフォニエッタ東京のライブCDを発売

**昨年12月に紀尾井ホールで行われた紀尾井シンフォニエッタ東京第47回定期演奏会のライブCDが発売されました。KST初の指揮者なしでの演奏会として話題を呼んだ公演です。**

**（4月20日発売 OVCL-00206　3,000円）**

収録曲 バルトーク：
弦楽のためのディヴェルティメント　Sz.113
ドボルザーク：
管楽のためのセレナーデ ニ短調 op.44
プロコフィエフ：
交響曲 第１番 ニ短調 op.25「古典交響曲」

## （財）新日鉄文化財団の活動

紀尾井ホール オペラ

紀尾井シンフォニエッタ東京 定期演奏会

新日鉄音楽賞
フレッシュアーティスト賞受賞者

第1回・諏訪内晶子さん

紀尾井 邦楽公演「新・竹取物語」

紀尾井 邦楽公演　能「江口」

第１５回・植村理葉さん